

むかいじま病院

ふれあい看護体験報告

令和元年 7 月 24 日 (水) 8:30~15:00

参加者 高校 3 年生 1 名 高校 1 年生 1 名 計 2 名

今年度、当院ではじめての看護体験の受け入れということもあり、指導者側も期待と不安が入り混じる中、計画を立案した。

看護体験のはじめに、大濱史朗院長より当院の特徴、その中での看護師の役割、どのような看護を提供しているかについて体験してほしいと挨拶・激励があった。

午前中は主に病棟患者への看護ケアを行ってもらった。緊張も相まって患者への声掛けが控えめではあったが、一生懸命に手浴・足浴・部分清拭などに取り組む姿が見られた。患者からも「本当に気持ちよかった」「ここまでしてもらって本当にありがとう」という声をいただいた。その後、リハビリ室への搬送とリハビリの見学を行い、昼食の配膳も行ってもらった。

午後は、外来で普段覗くことができない放射線科の MRI 検査の見学を行ったり、放射線技師から各検査のレクチャーをしてもらった。



体験後のアンケートには、

- ・ 普段見ることのできない放射線科の見学や、撮影された画像を見せてもらって貴重な体験ができた
- ・ 楽しかったし有意義だった
- ・ 憧れが明確に目標に変わった
- ・ また参加したい

という感想があった。はじめての受け入れではあったが、2人にとって有意義な時間を過ごせたようでよかったと思う。

しかしながら、2人がとても緊張しており、私のアプローチ不足もあって患者とのコミュニケーションが不足していたように思うので、【会話】という技術も体験してもらおうことが、今後の指導者側の課題であると思う。